

河上 肇 (かわかみ・はじめ) 1879~1946

経済学者・思想家 ~日本のマルクス主義経済学の開拓者~

出生 1879年(明治12)10月20日、山口県玖珂郡錦見村(現・岩国市錦見)に旧吉川藩士の長男として生まれる。別名 千山万水楼主人、閉戸閑人ほか。
履歴 東京帝国大学法科大学政治科卒業(1902)。大学等の講師を兼ねた後、読売新聞の記者になる。京都帝国大学に勤めながら(1908~1928)、ヨーロッパへ留学する(1913)。日本共産党入党(1932)。治安維持法違反で検挙され(1933) 刑期満了で出獄する(1937)。

事績 千山万水楼主人の名で読売新聞に『社会主義評論』を連載し、当時学会の権威であった教授などを批判して注目される。個人雑誌『社会問題研究』を創刊、マルクス「賃労働と資本」などを邦訳して、史的唯物論・マルクス主義経済学の研究と紹介につとめる。出獄後は閉戸閑人と称し、漢詩などの作品をつくりながら詩人として過ごす。

評価 河上肇が日本におけるマルクス主義経済理論の先駆者的な指導者であり、著作が同時代の知識人にきわめて大きく深刻な影響を与えたことは広く知られている。思想の自由を許さぬ時代に、何も恐れることなく自分の信念を貫いた。日本のみならず、中国の革命家たちにも河上肇の著作を通じて影響を与えている。また、経済学の分野にとどまらず文学的作品も多く残しており、文章の達人であった。

代表作

『社会主義評論』 読売新聞に千山万水楼の名で36回にわたって連載。近世の社会主義のユートピアン社会主義からマルクス主義に至るまでを紹介。全集3に収録。

『貧乏物語』 1916年大阪朝日新聞に連載された随想。上編いかに多数の人が貧乏しているか、中編何ゆえに多数の人が貧乏しているか、下編いかにして貧乏を退治しうべきか、の3部構成となっている。全集9に収録。

『資本論入門』 カール=マルクス「資本論」第1巻の入門書・解説書。日本での経済学の定着を考える上で無視できない著作。著者の研究がすすむにつれて、より正確に、より精密に何度も書き直した。戦前版は出版直後発禁になる。全集続2、続3に収録。

IL°ソト 1901年、足尾鉍毒事件に関する婦人鉍毒救済会の演説会で聖書の教えを实践しようと、その場で外套、羽織、襟巻を寄付し、下宿に帰って身につけているもの以外のすべての衣類を行李に入れて救済会にとどける。

最期 1946年(昭和21)1月30日、療養中の自宅にて、栄養失調と肺炎のため死去。享年66歳。



Great Works 18

河上肇全集 全36巻 岩波書店 1982~1986年 <081.8/94>

解題 河上肇の翻訳を除いた網羅的な全集。発表年順に構成されている。各巻の別篇には翻訳した著書の序文、他人の著書への序文、講演の記録なども収録されている。この全集のほか筑摩書房から『河上肇著作集』全12巻が刊行されている。

内容

- 1 経済学之根本概念 [昌平堂川岡書店 1905] 論説 1898.11-1905.4
- 2 経済学原論上巻 [有斐閣書房 1905]、日本尊農論 [読売新聞社 1905]、論説 1905.5-1906.1
- 3 社会主義評論 [読売新聞社 1906] 無我愛の心理 [読売新聞社 1906] 人生の帰趣 [古今堂書 1906]、論説 1906.1-1907.1
- 4 論説 1907.4-1909.12
- 5 人類原始ノ生活 [京都法学会(法律学経済研究叢書第2冊) 1909] 時勢之变 [読売新聞 1911]、論説 1910.1-1912.7
- 6 経済と人生 [実業之日本社 1911] 経済学研究 [博文館 1912] 金ト信用ト物価 [京都法学会(法律学経済学研究叢書第12冊) 1913]
- 7 経済原論 [有斐閣書房 1913] 論説 1912.8-1915.5
- 8 祖国を顧みて [実業之日本社 1915] 経済教科書 [金港堂書店 1922] 論説 1915.6-1916.12
- 9 貧乏物語 [弘文堂書房 1917] 社会問題官見 [弘文堂書房 1918] 論説 1917.1-1918.9

- 10 経済思想史論 [岩波書店 1920] 論説 1918.10-1920.3
- 11 唯物史観研究 [弘文堂書房 1921] 論説 1920.4-1922.5
- 12 社会組織と社会革命に関する若干の考察 [弘文堂書房 1922] 唯物史観の略解 [大阪労働学校出版部 1922] 論説 1922.6-1923.3
- 13 資本主義経済の史的発展 [弘文堂書房 1923] 論説 1923.4-12
- 14 階級論争の必然性と其の必然的転化 [弘文堂書房 1926]、論説 1924.1-1927.12
- 15 人口問題批判 [叢文閣 1927] マルクス主義経済学 [改造社(改造文庫)1930] 経済学大綱 [改造社(経済学全集第1巻)1928]
- 16 マルクス主義のために [希望閣 1929] 小児病を克服せよ [同人社書店(新労働党パンフレットNo.2) 1929] 論説 1928.1-1929.12
- 17 マルクス主義批判者の批判 [希望閣 1929] マルクス主義経済の基礎理論 [改造社(経済学全集第8巻) 1929] 和辻哲郎氏よりの寄書ならびに之に対する私の感想 [社会問題研究 76冊 1927]
- 18 大衆に訴ふ [うきよ堂書房 1930] 産業合理化とは何か? [同人社書店(労働者パンフレット第1号) 1930] 第二貧乏物語 [改造社 1930] 論説 1930.1-5
- 19 資本主義的詐取のカラクリ [同人社書店(労働者パンフレット第2号) 1930] 論説 1930.6-1932.6
- 20 陸放翁鑑賞 [三一書房 1949]
- 21 詩歌集、詩話集、獄中の手記、随想、識語
- 22 獄中日記 [世界評論社 1949]
- 23 晩年の日記
- 24~28 書簡
- 続1 日本農政学 [同文館 1906]
- 続2~3 資本論入門 [改造社 1932]
- 続4 マルクス資本論略解 [弘文館書房 1925]
- 続5~7 自叙伝 [岩波書店 1976]
- 別巻 著作年表、年譜、著作索引、書簡集人名索引

参考文献 ~この人をもっと知るために~

< 図書 >

- ☞ 甦る河上肇 / 三田剛史著
藤原書店 2003年 476p <289.1MM / 4390> 資料番号 21647839
- ☞ 永井荷風と河上肇 / 吉野俊彦著
日本放送出版協会 2001年 476p <910.26LL / 2022> 資料番号 21512850
- ☞ 留守日記 / 河上秀著
岩波書店 1997年 426p <289.1FF / 3564> 資料番号 20921631
- ☞ 河上肇 / ゲイル・L・パ-ンスタイン著
ミネルヴァ書房 1991年 309p <289.1AA / 3020> 資料番号 20400610
- ☞ 河上肇 (新日本新書 433) / 塩田庄兵衛著
新日本出版社 1991年 205p <289.1Z / 2955> 資料番号 20350823
- ☞ 河上肇そして中国 / 一海知義著
岩波書店 1982年 295p <289.1P / 1954> 資料番号 12360699
- ☞ 不屈のマルクス主義者河上肇 / 井上清編著
現代評論社 1980年 191p <289.1M / 1721> 資料番号 10537942
- ☞ 求道の人・河上肇 / 住谷一彦編
新評論 1980年 228p <289.1M / 1664> 資料番号 10537363
- ☞ 河上肇と中国の詩人たち / 一海知義著
筑摩書房 1979年 228p <919.6L / 18> 資料番号 12107934
- ☞ 河上肇 / 杉原四郎・一海知義著
新評論 1979年 322p <289.1L / 1545> 資料番号 10536118
- ☞ 河上肇詩注 (岩波新書) / 一海知義著
岩波書店 1977年 204p <919.6J / 16> 資料番号 12107918
- ☞ 河上肇の思想 / 住谷一彦著
未来社 1976年 240p <289.1G / 829> 資料番号 10528073
- ☞ 河上肇の人間像 (図書新聞双書) / 天野敬太郎・野口務共編
図書新聞社 1968年 336p <289.1 / 613> 資料番号 10525541